

株主メモ

決算期 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 (お問い合わせ先) 〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777(通話料無料)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村證券株式会社 全国本支店
※株式関係のお手続用紙のご請求は、
次の三菱UFJ信託銀行の電話および
インターネットでも24時間承っております。
電話(通話料無料)
0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪証券代行部)
インターネットホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞
ただし、貸借対照表および損益計算書の内容は、
当社ホームページにおいてご覧ください。
<http://www.faiith.co.jp/ir/announce.html>

本報告書に記載している会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

免責条項

本報告書に記載している将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。

株式会社フェイス

〒604-8171
京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1
井門明治安田生命ビル
URL <http://www.faiith.co.jp/>

お問い合わせ先

TEL.075-213-3933 FAX.075-213-3833
E-mail ir@faiith.co.jp

株式会社フェイス 第14期中間事業報告書

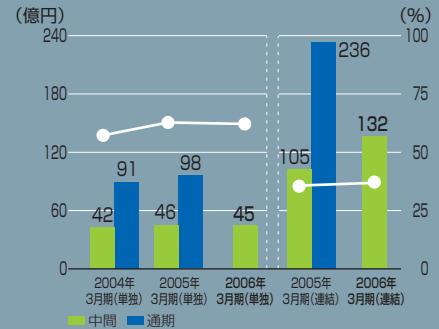
Faith, Inc. Semiannual Report (2005.4.1~2005.9.30)



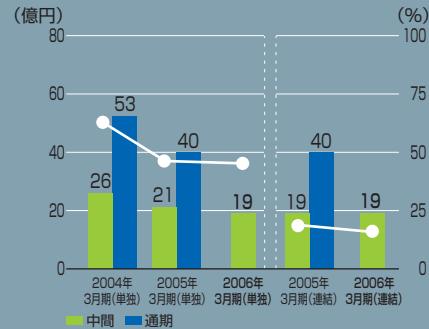
財務ハイライト(単独/連結)

※ 単位未満切り捨て

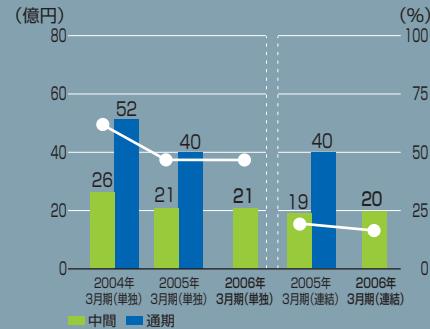
売上高/売上高総利益率



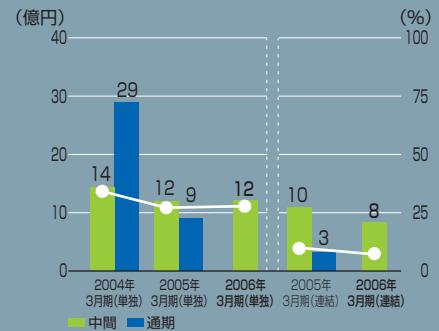
営業利益/営業利益率



経常利益/経常利益率



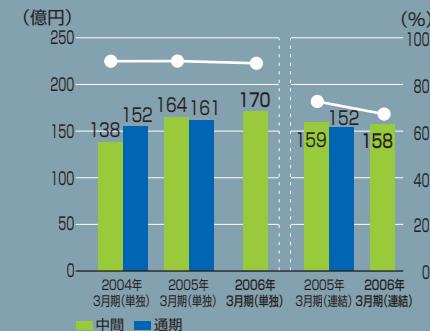
中間(当期)純利益/中間(当期)純利益率



総資産



株主資本/株主資本比率



一株当たり株主資本



一株当たり中間(当期)純利益



※ 2004年8月20日付で1株を2株に株式分割しております。

株主の皆様へ



代表取締役社長 平澤 創

営業の概況

当中間連結会計期間における国内の情報通信業界は、ブロードバンドネットワークの利用が拡大していく中で、音楽配信の利用拡大、魅力的なオンラインゲームの登場などで、デジタルコンテンツの利用ニーズがより一層高いものになりました。

このような動きに先んじて、当社グループは、「コンテンツの新しい流通のしくみ創り」に積極的に取り組んでまいりました。民間で最大手の音楽著作権管理会社、ジャパン・ライツ・クリアランス社に出資するなど、ライツホルダーとの関係を強固なものにし、次世代の音楽配信ビジネスの枠組みを構築しました。ゲームコンテンツでは、数万人規模のプレイヤーが同時に参加可能な本格的ロール・プレイング・ゲーム、「ローズオンライン」のサービスを正式リリースしました。イメージキャラクターとしてタレントの小倉優子さんを起用、インターネットゲームポータル「ハンゲーム」でのサービス提供、アロシステム社との業務提携によるゲーム内対人戦イベント「ローズバトルGP」の開催、ニッポン放送社とのコラボレーションによるPR番組の制作・放送など、様々な方面からユーザー数の増加に努めました。また同時に、今後の市場拡大が見込まれる、音楽配信、オンラインゲームの分野で高い決済シェアを占める、WebMoneyの収益機会も高いものになりました。

海外においては、当社が技術ライセンスを行っている携帯電話向け音源チップの需要が、特に米国、中国を中心に拡大し、同時に、

コンテンツサービスを世界各国で展開しました。米国で携帯電話キャリア事業を手掛ける米Faith Communications社を子会社化し、高所得者顧客向けの携帯電話サービスの提供を開始しました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高13,249百万円(前年同期比25.9%増)、営業利益1,940百万円(同1.6%増)、経常利益2,027百万円(同4.5%増)、中間純利益889百万円(同12.3%減)となりました。

事業部門別の業績

● コンテンツ配信事業

サービス事業とライセンス事業からなる当事業の売上高は6,373百万円(同18.2%増)、営業利益は1,931百万円(同4.2%減)となりました。

サービス事業

国内においては、着信メロディを中心とするコンテンツ配信サービスのユーザー数が、3キャリア合計で、800万人規模で推移しています。一方、新たなマーケットの創造として、①音楽配信、②オンラインゲーム、③映像配信サービスに向けた動きを活発化しました。

①音楽配信では、音楽制作者側との関係強化を目的としたジャパン・ライツ・クリアランス社への出資、②オンラインゲームでは、市場拡大を牽引する本格MMORPG、ローズオンラインの正式サービス開始、③映像配信サービスでは、吉本興業グループ、米Intel社との合弁会社設立などを実施しました。

欧州市場では、仏Digiplug社がUniversal Music Mobile International社のモバイルコンテンツ制作、欧州各国への配信をサポートしました。また複雑化した欧州市場の配信ネットワークに対応するため、Digiplug社のコンテンツ管理システムおよび配信ソリューションが広く採用されました。加えて、今後大きな成長が見込まれる、中国、ブラジルなどの新興市場への展開も積極的に推進しました。

この結果、サービス事業の売上高は5,376百万円(前年同期比23.9%増)となりました。

ライセンス事業

第三世代移動通信方式への移行が行われる中で、すでに複数の半導体メーカーを通じて国内のほとんどの携帯電話端末に採用されている当社の音源技術の需要が拡大しました。

一方、海外においては、米Qualcomm社が推進するCDMA通信方式の世界展開に合わせて、当社の技術ライセンスが引き続き拡大しました。

株主の皆様へ

この結果、ライセンス事業の売上高は997百万円となりました。前年は事業会社からのシステム構築受託などが含まれていたため、前年同期比は5.2%減となります。

● 電子決済事業

2005年6月末には、国内のブロードバンドネットワーク契約件数が2,000万件を超え、ネットワーク上でのコンテンツ利用環境が引き続き進化し、需要が拡大しました。一方で、個人情報に対する意識の高まりを背景に、ネットワーク上での安全かつ利便性の高い決済手段に対する需要が大きくなりました。

このような中で、ネットワーク上の「リアルタイム決済」におけるデファクトスタンダードとなっているWebMoneyは、国内および韓国大手ゲームメーカーの本格的参入を背景に市場が拡大するオンラインゲーム市場で、またデジタルミュージックプレイヤーの普及とともに利用ニーズが高まっている音楽配信市場で安定したシェアを確立しました。

以上の結果、電子決済事業の売上高は6,854百万円(同33.7%増)、営業利益は△5百万円(同94.9%増)となりました。

● その他の事業

その他の事業については、賃貸用不動産の賃貸収入などにより、売上高は21百万円(同543.5%増)、営業利益は14百万円となりました。

地域別の業績

● 日本

国内では、コンテンツ配信サービスのユーザー数が、3キャリア合わせて、月800万人規模に拡大しています。一方、新たなマーケットの創造として、①音楽配信、②オンラインゲーム、③映像配信サービスに向けた動きを活発化しました。また、第三世代移動通信方式への移行が行われる中で、すでに複数の半導体メーカーを通じて国内のほとんどの携帯電話端末に採用されている当社の音源技術の需要が拡大しました。

さらに国内のブロードバンドネットワーク利用が増える中、ネットワーク上で「リアルタイム決済」におけるデファクトスタンダードとなっているWebMoneyは、オンラインゲーム市場や音楽配信市場で安定したシェアを確立しました。

以上の結果、日本の売上高は11,408百万円(前年同期比16.2%増)、営業利益は1,987百万円(同0.3%減)となりました。

● 米州

米国では、米Moderati社が展開する着信メロディサービス「Modtones」をはじめ、着うたサービス「ModtonesDJ」なども順調に推移いたしました。一方、携帯電話キャリア事業を手掛ける米Faith Communications社を子会社化し、通信事業にも進出し、イタリア語で「声」の意味を持つ「VOCE(ヴォーチェ)」のブランドで、高所得者層やエグゼクティブ向けのサービスを提供していきます。また南米では、Curupira社が提供する着信メロディサービスがブラジルを中心に順調に推移しました。

この結果、米州の売上高は1,540百万円(同317.5%増)、営業利益は126百万円(同82.9%増)となりました。

● 欧州

欧州では、仏Digiplug社が、Universal Music Mobile International社等のモバイルコンテンツ製作、配信サポート等、欧州各国でサービスを展開しました。

この結果、欧州の売上高は300百万円(同10.9%減)、営業利益は△173百万円(同13.5%減)となりました。

通期の見通し

当社グループは、引き続き、「コンテンツの新しい流通のしくみ創り」に積極的に取り組んでまいります。音楽配信、映像配信、オンラインゲームなどの、今後大きな成長が見込まれる市場の中で、新たな需要を開拓することで収益機会を拡大し、また、ネットワーク上の決済手段として高いシェアを占めている電子決済事業も積極的に推進していきます。一方、海外においては、引き続き、海外子会社、携帯通信キャリア、端末メーカー、ライツホルダーなどとの連携によって、積極的に需要を開拓していきます。

通期の業績の見通しについては、売上高31,848百万円、経常利益3,892百万円、当期純利益1,800百万円を予想しています。

株主の皆様、そして取引先各位におかれましては、今後とも引き続き当社にご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2005年12月

代表取締役社長 平澤 創

世界各地での新しい動き



日本市場



株式会社
メディカルコミュニケーション
代表取締役社長 佐伯 浩二

新会社「株式会社メディカルコミュニケーション」を設立。 携帯電話を利用した新しい医療情報サービスを提供します。

近年、医療費の増大が大きな社会問題になっていて、勿論医療制度改革などの根本的な改革も必要ですが、そもそも無駄な医療が行われないような工夫も必要です。また、医療のみならず、健康に対する国民の意識が高まり、健康分野も含めたサービスニーズも高まってくることも想定されます。こうした医療・健康に関する支援サービスは、国民の健康度の向上に寄与するだけでなく、医療費削減にも貢献する可能性があります。

メディカルコミュニケーションが提供する医療・健康情報サービスは、夜間・休日・旅行先など、通常の生活時間帯以外の緊急時に、医療や健康に関する情報(今空いている病院の情報や病気に関する情報

など)を、いつでも、どこでも、携帯電話を利用して手軽に調べることができます。また、日常生活での健康状態を記録できる「Myカルテ機能」で、健診情報、日常の健康に関する情報共有をはかることにより、質の高い医療の提供にもつながります。電子カルテやCTやMRIなどで撮影した医用画像のデジタル化が進んでいることも、こうした情報サービスの開発や情報共有を後押ししています。

今後、ITを活用した様々な医療・健康分野のサービスがでてくるのが想定されますが、メディカルコミュニケーションは、リーディングカンパニーとして成長・発展を目指しています。



TOPICS

オンラインゲーム『eスポーツ』振興を目指し、「ローズバトルGP2005スペシャルマッチ アロシステム杯」開催。

約30万人のユーザーを有するオンラインゲーム「ローズオンライン」を使ったインターネットスポーツ「eスポーツ」の振興を目的に、「ローズバトルGP2005スペシャルマッチ アロシステム杯」を開催しました。2005年10月28日「WPCエキスポ2005」で行われたこのイベントは、来場したプレイヤー同士が小倉優子サイン入りパソコンをかけて、オンライン上で戦い、勝負を決定する催し。500名の観客と14名のプレイヤーが、壮大なスケールのネットワークエンターテインメント「ローズオンライン」を体感しました。



会場にて熱戦を繰り広げるプレイヤー(手前)と、スクリーンを真剣に見つめる小倉優子さん(壇上右)



北米市場 North America

米国フェイスコミュニケーションズを子会社化し、携帯電話キャリア事業で全米の富裕層を顧客化。

米国で携帯電話キャリア事業を展開するフェイスコミュニケーションズを子会社化しました。イタリア語で「声」を意味する『VOCE(ヴォーチェ)』ブランドのもと、米国内の富裕層向けに携帯電話キャリア最大手、シンギュラー社の回線を利用した通信事業(MVNO*)を行います。



『VOCE』は、年収20万ドル以上の高所得者層やエグゼクティブをターゲットに、Nokia社やMotorola社などの高機能専用端末を提供。端末の無料交換やアップグレード、無制限国内・国際電話サービス等、洗練されたカスタマーサービスを行います。また、空港でのアテンド、専用ラウンジの利用など、ハイクオリティなコンシェルジュサービスを加入者に提供します。

2005年第4四半期には、ロサンゼルス的高级ショッピング街の店舗を中心に、テストサービスを開始。2006年には本格的なサービスをスタートさせ、ニューヨーク、サンフランシスコ、シカゴ、マイアミ、ボストンなどの地域に事業を拡大する計画です。

このような特定顧客向けのモバイルサービスは、既存のモバイル市場にはない新しいビジネスモデルであり、フェイスが誇るモバイル・ソリューションの知識と経験を活かしながら積極的に展開していきます。さらに、当社以外のMVNO事業者にもサービスやソリューションの提供を図り、米国のモバイルマーケットの新たな領域を開拓していきます。

※MVNO(Mobile Virtual Network Operator): 仮想移動体サービス事業者
他社の携帯電話の通信インフラを用いて、移動体通信事業を行う事業者を指します。この分野は北米を中心に全世界への拡大が見込まれる市場であり、米YankeeGroupの調べでは、2010年までにMVNOの市場規模は、107億ドルに成長すると予測されています。



フェイスコミュニケーションズ CEOインタビュー



Faith Communications, Inc. 最高経営責任者(CEO) スティーブ・スタンフォード

注目のMVNOブランド「VOCE」を確立。安定収益を確保できる新ビジネスモデルとは――

MVNO(仮想移動体サービス事業者)の台頭は、米国携帯電話市場で最も注目を集める新しい動きです。Virgin MobileとBoost Mobileが2002年に設立されて以来、MVNOはプリペイド(料金前払い式)携帯電話市場の40%近くを占めるまでに成長しています。また2006年には、SK TelecomおよびESPNによるサービスを含め、初の大規模な料金後払い式MVNOの立ち上げが予定されています。

MVNOは携帯電話のインフラを持つ通信事業者から時間単位で回線を買取り、それを消費者向けの新しいブランドで再販売する事業です。従来の通信事業者よりも効果的にニッチ市場の顧客にターゲットを絞ることができるので、契約者獲得コストの

削減、解約率の引き下げ、およびユーザー1人当たり利用料の増加を実現できます。

フェイスは米国で同社初のMVNOサービス、VOCE(ヴォーチェ)を2006年前半に立ち上げます。他のMVNOの多くは若い男性をターゲットにしていますが、VOCEはサービスに対する要求レベルの高い、高額所得者を専門とする世界初の携帯電話サービスになります。こうした独特なビジネスモデルを掲げているため、従来のMVNOよりもはるかに少ない契約者数で損益分岐点に達し、なお且つ同等の収益を上げることができます。VOCEは米国最大の通信事業者であるCingularの回線を使って、まずはニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコでサービスを開始、その他の主要市場については来年中に順次サービスを拡大していく予定です。

またフェイスは現在、別のブランドと提携してその他のセグメントで新しいMVNOを立ち上げる機会も模索しています。

CEOプロフィール

スティーブ・スタンフォード(Steve Stanford)は、携帯電話業界のプレミアムセグメントをターゲットにしたMVNO、VOCEの創業CEOです。これまで他に2つの有名MVNOの設立に携わってきた。Boost Mobileではマーケティング担当副社長を務め、米国での同ブランドの定義と発足を指揮した。またVirgin Mobileでは、Best Buyとの携帯電話グループとの事業開発を進めるに当たり、株式保有率の交渉を行い、リテール業務立ち上げ計画を策定した。他にも最近では、2005年12月に発足するコンテンツ志向のMVNO、AmpdMobileの共同創設者兼COOとなった。

通信業界に足を踏み入れるまでは、Icebox.comの創設者兼CEOを務めていた。同社はインターネット娯楽のベンチャー企業で、ウェブサイト用のオリジナルアニメプログラムの開発で最先端を走っていた。その前の

7年間は、タレント事務所のICMですごした。ここでは、ニューメディア部門と企業顧問部門を立ち上げ、その運営に当たっていた。最初の就職先はOracle Corporationで、そこではネットワーク製品を担当するプロダクトマネージャーを務めた。

Time誌にネット起業家トップ100の1人に選出されたほか、Time Digitalの“Digital Dozen”(デジタル時代の12人)の1人にも選ばれた。また、Red Herring誌の“10 to Watch”(注目の10人)、およびHollywood Reporterの“35 Top Executives under 35”(35歳以下の有力企業経営幹部35人)にも挙げられた。

スタンフォード大学卒(理学士)。ロサンゼルスにAndrea夫人およびRyan, Brooke, Jadeの3人の娘と暮らす。

要約中間財務諸表(連結)

(単位:百万円 単位未満切り捨て)

中間連結貸借対照表

科目	当中間期		前中間期	
	2005年9月30日現在	2004年9月30日現在	2005年9月30日現在	2004年9月30日現在
(資産の部)				
流動資産	13,359	15,797		
現金及び預金	7,825	8,825		
受取手形及び売掛金	3,396	3,185		
有価証券	1,010	2,836		
たな卸資産	3	8		
繰延税金資産	795	733		
その他	399	246		
貸倒引当金	△ 70	△ 39		
固定資産	10,247	6,095		
有形固定資産	1,130	507		
無形固定資産	4,031	2,945		
連結調整勘定	3,511	2,608		
その他	519	336		
投資その他の資産	5,085	2,642		
投資有価証券	2,955	1,639		
敷金	1,103	748		
その他	1,227	448		
貸倒引当金	△ 201	△ 192		
資産合計	23,606	21,893		
(負債の部)				
流動負債	7,324	5,726		
買掛金	2,686	2,075		
未払法人税等	926	925		
カード利用原価引当金	2,304	1,882		
賞与引当金	73	76		
その他	1,332	767		
固定負債	205	229		
退職給付引当金	23	15		
役員退職慰労引当金	109	106		
その他	73	107		
負債合計	7,530	5,955		
(少数株主持分)				
少数株主持分	220	31		
(資本の部)				
資本金	3,218	3,218		
資本剰余金	3,708	3,708		
利益剰余金	8,919	8,885		
その他有価証券評価差額金	297	247		
為替換算調整勘定	66	△ 0		
自己株式	△ 354	△ 152		
資本合計	15,855	15,907		
負債、少数株主持分及び資本合計	23,606	21,893		

連結子会社について

当社の連結子会社は8社です

主要な連結子会社は以下のとおりです。

- Moderati Inc.
- Digiplug S.A.S.
- Faith Technologies S.A.S.
- Invest Virtua S.A.
- (株)ウェブマネー
- Faith Communications, Inc.

Faith Communications, Inc.については、株式取得により、当中間連結会計期間末から連結の範囲に含めています。

(注) Faith Communications, Inc.については、平成17年9月26日に株式を取得したため、同社の貸借対照表のみを連結しています。

中間連結損益計算書

科目	当中間期		前中間期	
	2005年4月1日～ 2005年9月30日	2004年4月1日～ 2004年9月30日	2005年4月1日～ 2005年9月30日	2004年4月1日～ 2004年9月30日
売上高	13,249	10,521		
売上原価	8,741	6,662		
売上総利益	4,507	3,858		
販売費及び一般管理費	2,567	1,949		
営業利益	1,940	1,909		
営業外収益	125	48		
営業外費用	38	18		
経常利益	2,027	1,939		
特別利益	109	42		
特別損失	152	122		
税金等調整前中間純利益	1,984	1,859		
法人税、住民税及び事業税	1,123	886		
少数株主損失	29	40		
中間純利益	889	1,014		

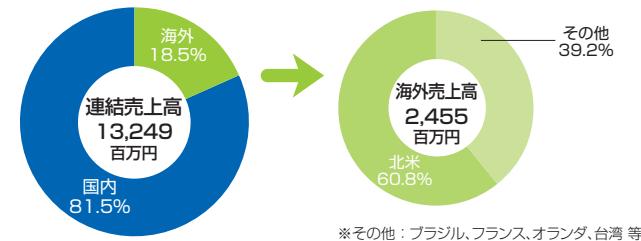
中間連結剰余金計算書

科目	当中間期		前中間期	
	2005年4月1日～ 2005年9月30日	2004年4月1日～ 2004年9月30日	2005年4月1日～ 2005年9月30日	2004年4月1日～ 2004年9月30日
(資本剰余金の部)				
資本剰余金期首残高	3,708	3,708		
資本剰余金中間期末残高	3,708	3,708		
(利益剰余金の部)				
利益剰余金期首残高	8,128	7,973		
利益剰余金増加高	889	1,014		
中間純利益	889	1,014		
利益剰余金減少高	98	101		
配当金	59	59		
役員賞与	39	39		
自己株式処分差損	—	3		
利益剰余金中間期末残高	8,919	8,885		

中間連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当中間期		前中間期	
	2005年4月1日～ 2005年9月30日	2004年4月1日～ 2004年9月30日	2005年4月1日～ 2005年9月30日	2004年4月1日～ 2004年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,546	2,142		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 920	△ 713		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 263	△ 214		
現金及び現金同等物に係る換算差額	76	12		
現金及び現金同等物の増加額	1,438	1,226		
現金及び現金同等物の期首残高	6,770	8,274		
現金及び現金同等物の中間期末残高	8,209	9,501		

地域別売上高の割合



キャッシュ・フローについて

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、税金等調整前中間純利益1,984百万円(前年同期比6.7%増)の計上、売上債権の減少による資金の増加があったが、法人税等の支払、投資有価証券の取得による支出等があったこと等から、前中間連結会計期間末に比べ1,291百万円減少(同13.6%減)し、当中間連結会計期間末は8,209百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額が1,200百万円ありましたが、税金等調整前中間純利益1,984百万円の計上、売上債権の減少による資金が1,125百万円増加したこと等により、2,546百万円(同18.9%増)の収入超過となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入が532百万円ありましたが、投資有価証券の取得による支出777百万円、有形固定資産の取得による支出が270百万円あったこと等により、920百万円(同29.1%減)の支出超過となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出204百万円、配当金の支払59百万円あったことにより、263百万円(同22.8%増)の支出超過となりました。

要約中間財務諸表(単独)

(単位：百万円 単位未満切り捨て)

中間貸借対照表

科目	当中間期		前中間期	
	2005年 9月30日現在	2004年 9月30日現在	2005年 9月30日現在	2004年 9月30日現在
(資産の部)				
流動資産	5,265	11,286		
現金及び預金	2,119	6,450		
受取手形	4	4		
売掛金	1,388	1,413		
有価証券	880	2,717		
たな卸資産	1	7		
その他	941	728		
貸倒引当金	△ 70	△ 35		
固定資産	13,749	7,220		
有形固定資産	882	409		
無形固定資産	269	268		
投資その他の資産	12,598	6,542		
投資有価証券	1,678	1,320		
関係会社株式	7,662	4,129		
繰延税金資産	1,068	—		
敷金	1,070	694		
長期預け金	950	—		
その他	241	464		
貸倒引当金	△ 74	△ 67		
資産合計	19,015	18,506		

科目	当中間期		前中間期	
	2005年 9月30日現在	2004年 9月30日現在	2005年 9月30日現在	2004年 9月30日現在
(負債の部)				
流動負債	1,789	1,802		
買掛金	438	561		
未払法人税等	913	869		
賞与引当金	61	50		
その他	376	320		
固定負債	137	212		
退職給付引当金	23	15		
役員退職慰労引当金	109	106		
その他	4	90		
負債合計	1,926	2,014		
(資本の部)				
資本金	3,218	3,218		
資本剰余金	3,708	3,708		
資本準備金	3,708	3,708		
利益剰余金	10,223	9,469		
利益準備金	1	1		
任意積立金	8,500	7,500		
中間未処分利益	1,721	1,968		
その他有価証券評価差額金	293	248		
自己株式	△ 354	△ 152		
資本合計	17,088	16,492		
負債及び資本合計	19,015	18,506		

中間損益計算書

科目	当中間期		前中間期	
	2005年4月1日~ 2005年9月30日	2004年4月1日~ 2004年9月30日	2005年4月1日~ 2005年9月30日	2004年4月1日~ 2004年9月30日
売上高	4,558	4,687		
売上原価	1,639	1,822		
売上総利益	2,918	2,865		
販売費及び一般管理費	925	765		
営業利益	1,993	2,100		
営業外収益	118	46		
営業外費用	1	12		
経常利益	2,109	2,134		
特別利益	82	—		
特別損失	24	63		
税引前中間純利益	2,168	2,071		
法人税、住民税及び事業税	934	846		
中間純利益	1,233	1,224		
前期繰越利益	487	746		
自己株式処分差損	—	3		
中間未処分利益	1,721	1,968		

会社概要・株式情報

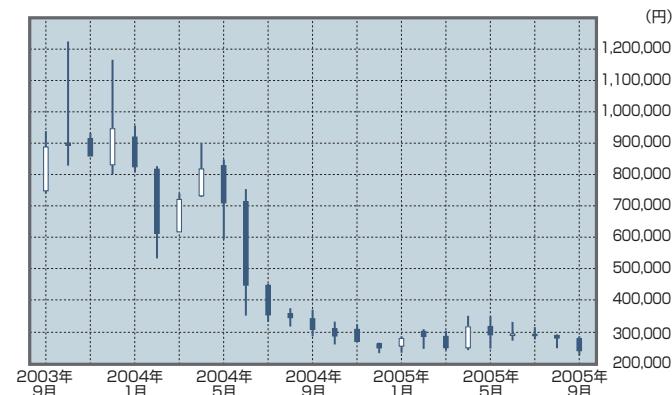
会社概要

2005年9月末現在	
会社名称	株式会社フェイス
英文表記	Faith, Inc.
本社所在地	京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1 井門明治安田生命ビル
払込資本金	32億1,800万円
設立年月日	1992年10月9日
従業員数	82名(連結 352名)
加入団体	社団法人 音楽電子事業協会(AMEI) 社団法人 日本音響学会 T-Engineフォーラム ETSI(The European Telecommunications Standards Institute) 音楽関連モバイルコンテンツ事業者協議会

取締役及び監査役

2005年9月末現在	
代表取締役社長	平澤 創
専務取締役	中西 正人
取締役	佐伯 浩二
取締役	踊 契三
常勤監査役	清水 章(公認会計士)
監査役	富岡 康真(テレック総合研究所主任研究員)
監査役	高橋 善男(財団法人京都府民総合交流事業団理事長)
特別顧問	前田 一龍

株価情報



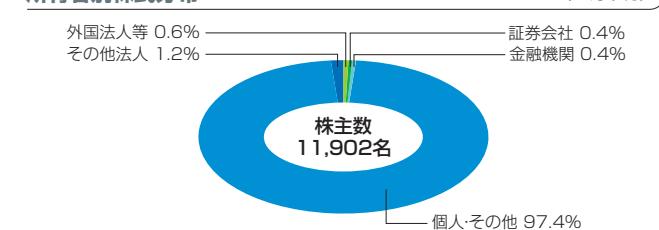
株式の状況

2005年9月末現在	
会社が発行する株式の総数	398,000株
発行済株式総数	239,200株
株主数	11,902名

大株主の状況(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
平澤 創	92,008株	38.64%
日本トラスティサービス信託銀行株式会社	15,533	6.52
中西 正人	14,132	5.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	9,904	4.15
野村信託銀行株式会社	5,724	2.4
日本証券金融株式会社	4,445	1.86
資産管理サービス信託銀行株式会社	3,561	1.49
日興シティ信託銀行株式会社	2,610	1.09
大阪中小企業投資育成株式会社	1,960	0.82
ゴールドマンサックスインターナショナル常任代理人 ゴールドマン・サックス証券会社東京支店	1,810	0.76

所有者別株式分布



所有株数別株式分布

